

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「寄り添う」「粘り強い」教育を実践し、生徒一人ひとりの夢の実現をサポートする。また、自らを高めるとともに、他者を尊重し、社会に貢献することのできる人材の育成する学校をめざす。

## 2 中期的目標

## 1 エンパワメントスクール開きと教育内容の確立

P D C A サイクルで組織的に取り組む。

ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。

イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。

※ 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」の肯定的な意見の割合を 70%以上とする。

## 2 3つの力（新たな自分を創造する力、人間関係を大切にできる力、社会に貢献する力）を育む。

## (1) 学習活動の充実

「わかる授業」「楽しい授業」をめざすとともに、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。

※ グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、授業アンケート「授業展開」の平均値を 4 段階中 3.07 以上にする。(平成 27 年度 3.05) また、授業アンケート「生徒意識 1」及び「生徒意識 2」の平均値を 3.0 以上にする。

## (2) 特別活動の充実

体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動、イングリッシュメイトの活動等の希望参加型行事を実施するとともに、部活動、生徒会活動等を活性化する。

※山海人プロジェクト、体育祭、文化祭等の全員参加型行事の事後アンケートにおける肯定意見 70%以上を維持する。国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケートにおける肯定意見 80%以上を維持する。

※学校教育自己診断における生徒の部活動加入率を 30%以上にする。(平成 27 年度 25.1%) 部活動加入者の満足率 70%以上を維持する。

## (3) キャリア教育の充実

ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の展開

※生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を 50%以下にする。(平成 27 年度 57.7%)

イ 人権教育の推進

※生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を 55%にする。(平成 27 年度 50.4%)

ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援

※エンパワメントタイムの内容を、他学年の LHR や総合的な学習の時間で実施する。

エ 望ましい職業観の育成と進路実現

※系統的なキャリア教育により、卒業時における進路未決定者を 10 人以下にする。(平成 27 年度卒業生のうち未決定者 17 人)

※ワープロ検定、英語検定、漢字検定等への参加者を毎年 100 人以上確保する。

オ 国際感覚の育成

※台湾の高校との相互交流や国際理解ワークショップ、及びオーストラリアの高校とのテレビ会議など、国際交流事業を定着させる。

## (4) インクルーシブ教育のさらなる展開

ア 授業のユニバーサルデザイン化を図る。

※ 授業アンケート「授業展開」の平均値を 4 段階中 3.07 以上にする。(平成 27 年度 3.05)

イ LHR や総合的な学習の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を 55%にする。(平成 27 年度 50.4%)

ウ 高校生活支援カードを活用し、必要に応じてケース会議を開く。個別の教育支援計画を必要な生徒に対して作成する。(平成 27 年度は 6 名分作成)

※ 高校生活支援カードの提出を 100%とする。

エ 地域の小学校への点字の出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。

※ 平成 27 年度までの取組みを継続する。

オ 「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育」事業（国事業）の 3 年目の展開を情報科で進める。

## 3 人材の育成と管理

(1) 次年度第一学年担任団の任命を早期（2 学期まで）に行い、具体的な準備を行うことを通して若手教員の OJT を進めていく。また、早期に次年度担任を任命することにより、今年度の学年担任団からの引き継ぎをリアルタイムでできるようにする。

(2) 教員全体の資質向上のため、外部講師を招聘し、授業改善を中心に、人権問題、教育相談、社会人教育など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。

※ ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間 20 回実施する。

## 4 地域連携

ア 地域の小学校への点字の出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。(再掲)

イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。

※ 参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が 1 団体以上参加する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
○指導に対する生徒の意識を高めながら、寄り添う生徒指導を継続 頭髪指導や遅刻指導に対する生徒の肯定的な回答や学校生活に対する肯定的回答は前年度より減少しているが、教員に対する生徒の意識の肯定的回答は増加している。また、教育活動の全般にわたって保護者の肯定的な回答は大幅に増加している。今後も保護者とも連携しながら、	第 1 回 5 月 24 日 (火) 1 年生の国語・数学・英語の授業において目標を持たせたり、良い結果は褒めてあげたりして、生徒の学習に対するモチベーションを上げてほしい。

<p>指導に対する生徒の理解も得られるよう粘り強く指導を継続していく。</p> <p>○ <b>授業改善のための取組みのより一層の充実</b>      今年度「わかる授業」の実現に向けた取組みを計画的に実施することができた。その成果については生徒向けの授業アンケートにも表れているとおりである。「わかる授業」にむけた教員自身の意識は昨年度より減少しているが、一方、「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」は増加している。これはエンパワメントスクールのスタートにあたり、生徒指導や教材研究等にかかる時間が増加し、一定取り組んではいるものの、思うようには取り組めていない状況を反映しているものと考えている。授業における ICT 機器の活用については大幅に増加している。今年度の取組みをより一層発展させていく。</p> <p>○ <b>相互の連帯感の更なる育成</b>      教職員間の信頼関係や気軽に話し合える人間関係に関する肯定的な回答が昨年に引き続き減少している。「わかる授業」に向けた研修をはじめ校内研修のより一層の充実を図り、教職員間の連帯を醸成していく。</p>	<p>第2回 10月7日(金)          山海人プロジェクトの活動は、岬町の広報誌に掲載を依頼することを検討してほしい。電話対応は、丁寧にするよう心掛けてほしい。</p> <p>第3回 3月3日(金)          駅前で登校指導を行い声をかけているが、小・中学生からはあいさつが返ってくるが、高校生からは、特に大人数でいるときには、挨拶が返ってこない。これから社会に出るときには大事なことなので、挨拶ができるようにしてもらいたい。</p>
---	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 エンパワメントスクール開きと教育内容の確立	<p>P D C A サイクルで組織的に取り組む。</p> <p>ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを行う。</p> <p>イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。</p>	<p>ア 担当者を中心に、振り返りの会議を月に1回開催する。          また、次年度以降の選択科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う。</p> <p>イ 教育委員会主催の会議に担当者が出席し、情報収集するとともに、職員会議等においてフィードバックする。</p>	<p>ア 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」の肯定的な意見の割合を70%以上とする。</p>	<p>「国数英の授業は毎日30分あるので、学力がつくと思う。」(59.4%)「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力が付く授業だと思う。」(44.4%) (△)</p>
2 (1) 学習活動の充実	<p>「わかる授業」「楽しい授業」をめざすとともに、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める、②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く、③メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける、④考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける、⑤具体的にほめるという5項目の内容を教員が目標とする。</li> <li>ICTの活用を活用した公開授業を行い、研究協議を行う。</li> </ul>	<p>生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中3.07以上にする。(平成27年度3.05)</p> <p>また、授業アンケート「生徒意識1」「生徒意識2」の平均が3.0以上になるようにする。(平成26年度2.87、2.88)</p>	<p>「授業展開」の項目において、平均が3.13であった。(◎)</p> <p>「生徒意識1」は、2.98          「生徒意識2」は、3.01であった。(○)</p>
2 (2) 特別活動の充実	<p>体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施するとともに、部活動、生徒会活動等を活性化させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する。</li> <li>年度当初に、1年生に対して部活動紹介を行うとともに、業績を上げた部活動を全体場で公表し、表彰する。</li> <li>山海人プロジェクトの教育課程への関連付けを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員参加型行事の事後のアンケートにおける肯定意見70%以上にする。</li> <li>希望者参加型行事の事後のアンケートにおける肯定意見を80%以上にする。</li> </ul>	<p>全員参加型行事の事後アンケートにおいて、肯定意見は体育祭が82%、文化祭が55%、山海人プロジェクト70%であった。(○)</p> <p>オーストラリアの高校とのテレビ会議は日程調整ができず、今年度実施できなかったため、希望者参加型行事は、台湾の研修旅行のみとなった。事後アンケートでは参加者すべてが肯定的であった。(○)</p>
2 (3) キャリア教育の充実	<p>ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の展開】</p> <p>イ 人権教育の推進</p> <p>ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援</p>	<p>ア 生徒の礼儀やマナーについての意見を学校協議会で聞く。</p> <p>イ LHR や総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする。</p> <p>ウ エンパワメントタイムの内容を他学年のLHR や総合的な学習の時間で実施する。</p>	<p>ア 生徒の礼儀とマナーについての学校協議会の意見を校内外での生徒指導に反映させる。          生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を50%以下にする。(平成27年度57.7%)</p> <p>イ・ウ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が行われている。」を55%以上にする。(平成27年度50.4%)</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断において「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見は、58.9%であった。(△)</p> <p>イ・ウ 生徒無学校教育自己診断において「人権を大切にするための学習が行われている。」の肯定的意見は、50.3%であった。(△)</p>

## 府立岬高等学校

2(3) キャリア教育の充実	<p>エ 望ましい職業観の育成と進路実現</p> <p>オ 国際感覚の育成</p>	<p>エ 1年次から進路実現を目標としたHRを計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める。ワープロ検定、英語検定、電卓検定等への参加者を毎年確保する。そのため、年度当初から実施日程について生徒に示し事前指導する。</p> <p>オ 台湾の高校との相互交流を継続し、交流内容の充実を図るとともに、訪問受け入れ時の参加人数をできる限り増やす。 テレビ会議の開催日程を早期に決定し、準備期間を確保するとともに、多数の生徒の参加を促す。</p>	<p>エ 卒業時における進路未決定者を10人以下にする。各種検定等への参加者のべ100人以上を継続する。</p> <p>オ 台湾の高校の訪問を受け入れる際の参加生徒数を10名以上、台湾への訪問生徒数を3名以上確保する。 テレビ会議の企画段階から生徒が参加し、当日の進行も担当する。</p>	<p>エ 卒業時における進路未決定者は16人であった。(△) 各種検定等への参加者は延べ435人である。(◎)</p> <p>オ 台湾の高校による本校訪問は実施されず。また、台湾の高校への訪問生徒は、3人であった。(○) テレビ会議は相手校との日程調整ができず、今年度は、実施できなかった。(△)</p>
2(4) インクルーシブ教育のさらなる展開	<p>ア 授業のユニバーサルデザイン化を図る。</p> <p>イ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。</p> <p>ウ 高校生活支援カードの活用</p> <p>エ 「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育」事業(国事業)の3年間の成果と課題を検証する。</p>	<p>ア 支援教育の観点にも留意しつつ、2(1)の授業づくりに取り組む。</p> <p>イ LHRや総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする。(再掲)</p> <p>ウ 高校生活支援カードを入学時に新入生全員に作成させ、生徒の状況を年度当初に共有する。また、必要な生徒に対して、個別の教育支援計画を作成する。</p> <p>エ 事業が3年目を迎え、これまでの支援内容について成果と課題を整理し、生徒の社会的自立につなげるとともに、今後の本校における支援教育について検討を加える。</p>	<p>ア 2(1)と同じ</p> <p>イ 2(3)イ・ウと同じ</p> <p>ウ 高校生活支援カードの提出を100%とする。 必要な生徒に個別の教育支援計画を作成する。(平成27年度6人)</p> <p>エ 3年間の事業の成果と課題をまとめ、報告書を作成する。</p>	<p>ア (再掲) 「授業展開」の項目において、平均が3.13であった。(◎)「生徒意識1」は、2.98、「生徒意識2」は、3.01であった。(○)</p> <p>イ (再掲) 生徒無学校教育自己診断において「人権を大切にするための学習が行われている。」の肯定的意見は、50.3%であった。(△)</p> <p>ウ 高校生活支援カードの提出率は100%であった。今年度新たに1名の個別の教育支援計画を作成した。(○)</p> <p>エ 報告書を作成することができた。(○)</p>
3 人の育成と管理	<p>ア 早期の役割分担によるOJTの推進。</p> <p>イ 教員研修の充実。</p>	<p>ア 次年度第1学年担任団の任命を早期(2学期まで)に行い、具体的な準備を行うことを通して若手教員のOJTを進めていく。また、他学年についても早期に次年度担任を任命することにより、引継を円滑に行えるようにする。</p> <p>イ ミドルリーダーや外部講師により、授業改善を中心とする研修を行う。</p>	<p>ア 次年度校内人事の早期決定(1年担任を9月までに、その他の学年の担任を年内に任命する。)</p> <p>イ ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間20回実施する。</p>	<p>ア 1年の担任団を8月末までに、2・3年の担任団を9月末までに決定した。(◎)</p> <p>イ 研修会は、26回実施した。(◎)</p>
4 地域連携	<p>ア 地域の小学校への点字の出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。</p> <p>イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。</p>	<p>ア 取組みを継続する。</p> <p>イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する。</p>	<p>ア 取組みを継続する。</p> <p>イ 参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する。</p>	<p>ア 点字の出前授業(12月2日に実施)車いす体験ボランティア(10月21日に実施)(◎)</p> <p>イ 里海つつじ祭りに軽音楽部が、新春里海まつりに、吹奏楽部が参加した。国際交流行事に軽音楽部が参加した。教育フェスタは講演会が実施され10名の教員が参加した。(○)</p>